

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 3 月 28 日

所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生 3 年
氏名	齋藤 美保

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)	
北海道札幌	
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)	
第 65 回日本生態学会大会	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 30 年 3 月 14 日～3 月 18 日 (5 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)	
日本生態学会	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
本出張の目的は第 65 回生態学会北海道大会でポスター発表を行うことであった。 出張者は、タンザニアで行っているキリンの子育て場と休息場の環境選択について発表を行った。生態学会大会への参加は出張者にとって初めてであった。参加者のうち、哺乳類の行動生態学研究を行っている方は少ないものの、ポスター発表のコアタイムには、出張者と同じようなテーマで富士山麓の鳥類の環境選択について研究されている方などが、発表を聞きに来てくださった。似通った研究を行っている方以外にも、様々なバックグラウンドを持つ方々が発表を聞きに来てくださった。そのような方々と交流を行うことで、今まで出張者が持ち合わせていなかった視点からの質問を受けることが出来、今後一つの研究に対してあらゆる方面から考察を行うきっかけになると感じる。また、今まで出張者は国内の学会に参加したことがほとんどなく、このような場を介して日本の研究者の方々とお知り合いになれたことは大きな収穫であった。 さらに、学会経験が浅いため、「自分の研究を他の人にいかにわかりやすく伝えるか」という点において、まだまだ他の出席者の方と比較して劣っていたと反省している。今回の出張で、見やすいポスターとはどのような構成か、このようなデータを取得した時はどのような分析が適切か、などたくさんのことを見て学ぶことが出来た。この経験を活かし、今後の国内外での発表に活かしていきたい。	
	写真 1 口頭発表会場の様子
<b>6. その他</b> (特記事項など)	
本出張は PWS リーディングプログラムの援助を受けて実現しました。プログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。	